

子育て世代の **声** をお届けする

母子モ通信

vol.
04

エムティーアイが運営する
母子手帳アプリ『母子モ』は、
サービス導入自治体の最新情報や
子育て世代の声を集めた
『母子モ通信』をお届けしています。



母子手帳アプリ導入自治体インタビュー第3弾!

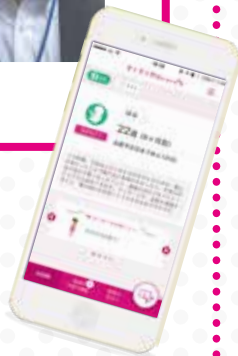
~山形県村山市編~

『母子モ』を運営するエムティーアイってどんな会社?

エムティーアイが進めるヘルスケア事業について紹介します

山形県村山市の担当者に聞きました！ 母子手帳アプリ導入による、子育て世帯の反応とその効果とは!?

インタビューに答えて下さったのは、2017年の9月より、『母子モ』をベースとした母子手帳アプリ『すくすく村山』の提供をスタートした、山形県村山市子育て支援課 岡村様です。



Question 1

市独自の支援策で子育て世代を手厚くサポート！

村山市が取り組んでいる子育て支援についてお聞かせください。

村山市では独自の取り組みとして、お子さんの保育料を1人目から半額にしており、第3子以降のお子さんは3歳になるまで、1人当たり月額7,500円を児童手当に上乗せして支給しています。また、県内初の取り組みとして、産後1ヶ月の母子健診の無料化や、中学2年生を対象としたピロリ抗体検査および除去治療の無料化、昨年より新生児聴覚検査費用を3,500円まで助成、高等学校・大学への進学を応援する給付型奨学金の設置などの支援を行っています。ほかにも、定住を目的とし市内に土地または新築・中古住宅を購入する方に、最大150万円を補助する支援を実施するなど、子育て世代を応援しています。

Question 2

能動的な情報発信で、市民の求めている子育て情報を確実にリアルタイムにお届け！

アプリを導入してよかったことや、導入後に変わったことを教えてください。

これまで市報やホームページなどで子育てイベントの情報発信を行ってきましたが、「必要な情報が見つけれない」、「手に入らない」という声がありました。そんな中、今回導入したアプリでは、従来の情報発信と同様の受動的な面を持ちながらも、何よりプッシュ通知で能動的に情報発信ができる点が大きなメリットと感じています。しかも、子育て世代のほとんどが常に持ち歩くスマートフォンで利用できるため、時代に即したツールであると思っています。

Question 3

チラシ配布と子育てイベントや乳幼児健診時に直接アプリの魅力を紹介し、登録を促進！

住民の方へ「すくすく村山」を広めるために、これまで取り組んできたことがあれば教えてください。

市報・ホームページ・Facebookなどでの周知や、市内の全保育施設へチラシの配布、また子育てイベントに向いてチラシを配り、関心のある方にはその場でデモ機を見せながら説明し、登録の案内を行いました。母子健康手帳の交付時や新生児・乳児訪問時に、保健師が直接保護者にアプリのメリットを紹介したり、乳幼児健診にも子育て支援課職員が向いてアプリの紹介を行ったり、登録を勧めています。また、村山市では年間およそ40から50人の未就学児が転入してきますので、未就学児を持つ転入者に対して健診の日程を説明する際にも、市の

『母子モ』を運営する エムティーアイって どんな会社!?



続いては、母子手帳アプリ『母子モ』を運営する株式会社エムティーアイについて紹介します。

IT企業と言われても、実際どんな仕事をしているのかいまひとつピンと来ない方も多いのではないのでしょうか？そこで今回は、僭越ながらこの場を借りて、エムティーアイが注力するヘルスケア事業について説明させていただきます！



マイナス1歳から100歳まで！ 一生涯の健康管理をスマホでサポート

1996年に創業したエムティーアイは、ガラケーやスマホへアプリなどのコンテンツを提供し、人々の生活に役立つ便利なサービスを20年以上に渡りお届けしてきました。

特に、スマホが生活のあらゆるシーンで活用されるような存在になってからは、いつも持ち歩くスマホによる健康管理の可能性に着目し、『母子モ』のほかにも、女性の健康情報サービス『ルナルナ』や、部活を頑張る学生と指導者をサポートする『Atleta(アトレータ)』、企業の健康経営を支援する健康管理アプリ『CARADA』シリーズなど、ライフステージに合わせた多様なヘルスケアサービスを提供し、「(妊娠中の) マイナス1歳から100歳まで」生涯にわたる健康管理をサポートできる社会の実現を目指しています！今回はその中から、『ルナルナ』と『Atleta』について、詳しくお話をさせていただきます。

今回は2017年9月より利用を開始した山形県村山市のご担当者に、市独自の子育て支援をはじめ、アプリ導入後の変化や利用者の声、今後期待していることなどをお伺いしました。

子育て情報をまとめて知ることのできるアプリとして登録を勧めています。市内に3ヶ所ある子育て支援センターでもPRを行い、支援員にもアプリの説明と登録方法を伝え、施設利用者に対し直接勧誘や登録のお手伝いをしてもらっています。

Question 4

必要な子育て情報も予防接種管理もアプリでらくらく。働くママたちもしっかりサポート！

利用されている住民の方からの声を教えてください。

実際に接したお母さんたちからは、「予防接種の間隔などが管理・把握できてとても便利です」という声を聞いています。山形県は女性の就業率が高く、忙しい毎日の中でも忘れずに予防接種の管理ができるツールとして重宝されているのではないのでしょうか。また、市で実施したアンケートの結果からは、「プッシュ通知でタイムリーな情報を受け取ることができるので便利です」という声も頂いています。

Question 5

『すくすく村山』が子育ての必須アイテムへ…！

今後アプリに期待することや、取り組みたいことを教えてください。

今後は、さらなる登録者数の増加に取り組みたいと考えています。登録者が増えることで、「すくすく村山」が村山市での子育てにとって必須のアイテムになれば、全ての情報発信が「すくすく村山」で完結できるようになります。それにより、村山市役所としてもペーパーレス化によって職員の作業を削減できるだけでなく、住民の方にとってもより便利に子育てできるようになるので、双方にとって大きなメリットがあると考えています。



窓口での案内風景



保健師の方

村山市職員の皆さま、インタビューにご協力ありがとうございました！



村山市でも独自の支援策で子育て世代を手厚くサポートされていますが、『すくすく村山』がママたちの育児をさらに支援し、また市と子育て世代をつなぐツールとして重宝されていることを嬉しく思います。また当社のサポート体制に対しても、「市が準備することが少なく、短時間でスムーズに導入ができた」、「利用して感じたことや要望を伝えると迅速に検討し改善してくれ、万全のサポート体制ができていている」といったお声をいただきました。

今後も、さらにお役に立てるようニーズに合わせたきめ細かいサポートを実施し、現役のママやパパ、自治体職員の皆さまのご意見などを元に、より良いサービスへと発展してまいります。

『母子も』運営チーム

**アプリ版は1,200万DL以上！
女性の健康情報サービスのパイオニア『ルナルナ』**

2000年にサービスを開始した『ルナルナ』は、アプリ版のダウンロード数が1,200万*を超え、多くの女性に愛用されています。生理日管理から、避妊・妊活・妊娠・出産・育児など、ライフステージごとに寄り添ったサービスを提供し、幅広い年代の女性の健康をサポートしています。近年ではビッグデータを活用した独自ロジックで、個々の状況に合わせたより妊娠しやすい日をお知らせする妊活支援や、埼玉県と連携協定を締結し、若い世代への妊娠・不妊に関する基礎知識の啓発、県独自の不妊治療費助成制度の浸透を図るなど、社会問題となっている少子化対策の一助となるような取り組みにも力を入れています！

*2018年3月時点



700以上の部活動で導入！選手の自己管理能力向上と成長を支援するコンディション管理アプリ『Atleta』

『Atleta』は、日々の体調や睡眠、食事などを記録・管理することで、選手と指導者のコミュニケーションを促し、選手の成長と自己管理能力の向上をサポートするサービスで、公私立を問わず中学・高校の部活動を中心に700以上のチームで導入されています。女子選手では、将来の妊娠への影響や健康問題に発展する可能性もある「月経異常」や「無月経」などの症状を、男性指導者に伝えづらいなどの理由により放っておくことも多いようです。『Atleta』では月経管理機能によって指導者とのコミュニケーションをスムーズにし、女性特有の体調管理にも役立ちます。

スポーツを通して、10代の若いうちからコンディション管理の習慣と健康に対する正しい知識を身に付けることで、将来の健康管理へつなげることができる注目のヘルスケアサービスです！



子どもの数は37年連続の減少! 女性たちの「子どもを産むこと」についての本音を調査

約9割の女性は子どもを欲しいと思っているけど、その一歩が踏み出せない・・・



「こどもの日」にちなみ、今年も総務省から「わが国の子どもの数」が発表されました。平成30年4月1日現在における子どもの数は、前年にくらべ17万人少ない1,553万人で、昭和57年から37年連続の減少となり、過去最低を更新しました。

晩婚化や晩産化などにより出生数も減少していますが、女性たちは「子どもを産むこと」に対して、どのような考えを持っているのでしょうか。当社の調査によると、既婚・未婚やパートナーの有無を問わず約9割の女性が「子どもを欲しい」と思っていることが分かりました。しかし、子どもを持つことを想定した際に不安なことはあるかと聞いたところ、約9割が「ある」と回答しています。具体的な内容として上位に上がってきたのは「経済的な負担」「自分が妊娠できるかどうか」「妊娠～育児と仕事が両立できるか」といった内容です。子どもが欲しいと思いつつも、妊娠・出産に対する不安がぬぐえずに、その一歩が踏み出せない・・・。といった女性が多くいることが分かります。

そんな女性たちの心配事を少しでも和らげられるよう、『母子モ』では、自治体の皆様と協力し、妊娠・出産に対する不安や負担を軽減し、誰もが子どもを産み育てやすい環境づくりをサポートしていきたいと考えております!

※調査実施時期：2017年9月6日～18日 調査方法および人数：『ルナルナ』にて、10代～50代以上の女性 33,036名

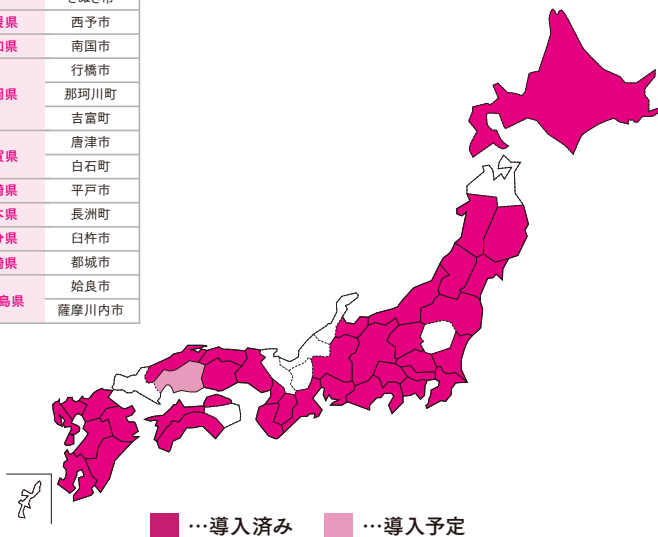
導入実績

全国101自治体で導入!!



現在、「母子モ」は、全国各地の自治体で導入頂いており、ついに101自治体で導入済みとなりました。岩手県、秋田県、埼玉県、愛知県、鳥取県、島根県、愛媛県、佐賀県、熊本県、大分県でも新たにスタートし、日本全国の自治体様にご好評いただいております。

北海道	稚内市	群馬県	前橋市	神奈川県	箱根町	島根県	奥出雲町
	江別市		上野村		湯河原町		岡山県
	石狩市	埼玉県	ふじみ野市	新潟県	愛川町	香川県	高松市
	上ノ国町		船橋市		弥彦村		さぬき市
	仁木町	千葉県	木更津市	富山県	出雲崎町	愛媛県	西予市
	当麻町		松戸市		南砺市		高知県
	小清水町	東京都	柏市	山梨県	朝日町	福岡県	行橋市
	遠軽町		富津市		甲府市		那珂川町
	大空町	東京都	葛飾区	長野県	忍野村	佐賀県	吉富町
	音更町		稲城市		千曲市		唐津市
土幌町	岩手県	羽村市	岐阜県	美濃加茂市	長崎県	白石町	
一関市		横須賀市		可見市		平戸市	
宮城県	栗原市	静岡県	平塚市	愛知県	三島市	熊本市	
八郎潟町	鎌倉市		磐田市		大分県	白杵市	
山形県	村山市	静岡県	藤沢市	愛知県	焼津市	宮崎県	
	長井市		茅ヶ崎市		函南町	宮崎県	都城市
福島県	東根市	神奈川県	逗子市	三重県	吉田町	鹿児島県	始良市
	会津若松市		秦野市		大府市		薩摩川内市
	郡山市		伊勢原市		美浜町		
	喜多方市		葉山町		四日市市		
	猪苗代町		寒川町		泉佐野市		
茨城県	三春町	神奈川県	大磯町	兵庫県	篠山市		
	龍ヶ崎町		二宮町		播磨町		
	ひたちなか市		中井町		天理市		
	稲敷市		大井町		生駒市		
	大洗町		松田町		三宅町		
	大子町		山北町		和歌山県	海南市	
境町	開成町	鳥取県	北栄町				



※2018年6月18日現在 ※OEM提供サービスのマイナンバー版等含む

予防接種モ! 成長記録モ! 街の育児情報モ!
母子健康手帳と一緒につかう、地域とつながる子育て支援サービス

お問い合わせご連絡先 資料請求モ、お見積もりモ、予算相談モ、本年度導入相談モ!!

☎03-5333-6172 受付時間10:00~18:30(土日祝祭日除く)

✉ mti_boshimo_contact@mti.co.jp

株式会社エムティーアイ モバイルサービス営業本部 公共営業部 母子モ担当 ※2017年11月1日より部署名が変わりました
〒163-1435 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー35F <http://www.mti.co.jp/>

